

第8回 買物公園のあり方検討会議
(第1回 エリアプラットフォーム会議)

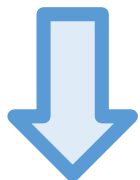
(1) 前回会議のワークショップについて

①未来ビジョン（概案）について（ゾーンⅠ～Ⅲ）

②社会実験（案）について（モビリティ）

<未来ビジョン（概案）について>

- 未来ビジョンの各ゾーン（Ⅰ～Ⅲ）で新たに欲しいものや機能，増えて欲しい活動を抽出



買物公園エリアのゾーンⅠ～Ⅲについて，イラストの吹き出しや図が追加されるような内容について挙げてもらいました

【未来ビジョンとして策定】

<社会実験（案）について（モビリティ）>

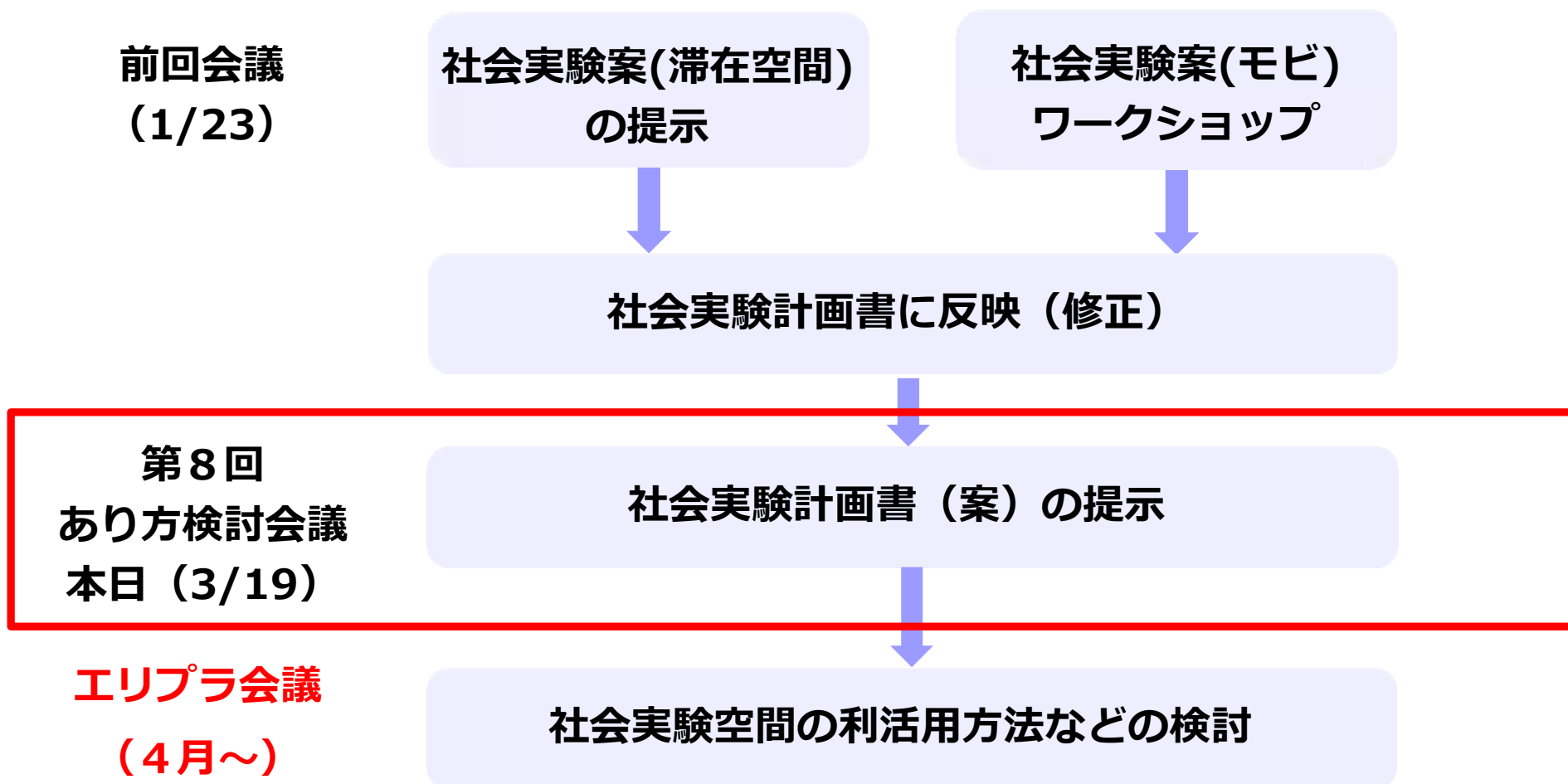
- 駅前や交通結節点に集中している人の流れをエリア全体に広げていくための手段として，滞在空間の設置により来街目的となる場を創出し，移動のしやすさを向上させるためにモビリティの運行をする実験を考えている。モビリティを活用する場合，どのような仕掛け（ルート工夫など）をすれば良いか



買物公園エリア全体に人の流れを広げるために，電動カート等を運行したら良さそうな場面(シーン)やより良い活用方法を挙げてもらいました

【社会実験計画書案として提示】

(2) 今後の流れ



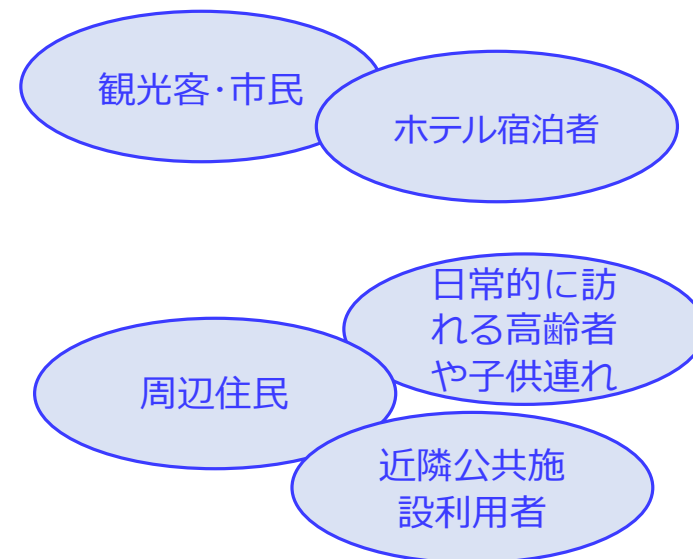
(3) ワークショップまとめ (各班)

○モビリティ活用の考え方 (模造紙)

《電動カート》

- ・モビリティに乗ること自体が目的となる設えに (エンタメ性)
- ・飲食しながら乗れるモビリティ
- ・滞在空間が減少してしまう,買物公園内は通さなくてもよいのでは?
- ・旭川に初めてきた人が,旭川の街めぐりをしたり
- ・南北ルート(買物公園内)とループ案 (周回ルート)
- ・高齢者の買い物の足に・・・7条緑道周辺⇔買物公園⇔駅前エリア
- ・カートと自転車の乗り換え (モビリティの乗り換え)
- ・バスで来街した人(モビリティの乗り換え:1・4条周辺～市役所方向)
- ・日中に市役所に行く際に利用
- ・近隣の公共施設の利用者を買物公園に (図書館, 美術館, 文化会館, 北彩都ガーデン, サイパルなど)
- ・観光客に“まち”を見てもらう。時間をかけて巡る(仲通走行ルート) 買物公園内を通らないルート

電動カートの利用ターゲット



電動カートを通行させる場所・ルート



○モビリティ活用の考え方（模造紙）

《レンタルするモビリティ》

- ・市民はキックボード，WHILLを利用して市役所⇔駅の用事で活用
- ・高齢者の日中移動の足としてWHILLを活用
- ・レンタサイクルの乗り捨てスポット（若者向け）
- ・ピクニックシート，自転車，キックボードを貸出
- ・買物公園に設置する滞在空間付近にレンタルスポットを設置（1条・4条・7条緑道周辺など）

《自転車・その他》

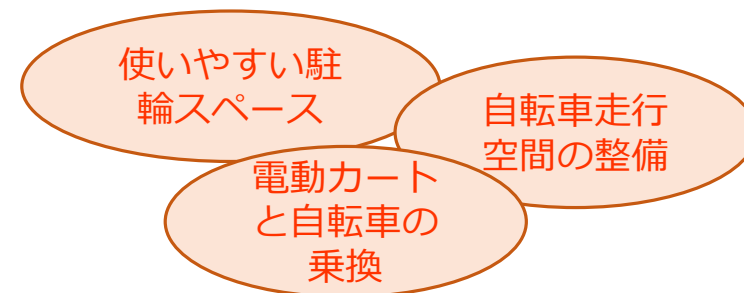
- ・旭川駅(観光物産情報センター)のレンタサイクルの活用(普及)
- ・格好いい(利用しやすい)サイクルラックの設置
- ・緑橋通と昭和通に自転車道を整備

- ・電動カートと自転車などの乗り換え
- ・情報発信は旭川のインフルエンサー(若者はインスタで情報収集)

レンタルモビリティの利用ターゲット



今ある移動手段との連携



○モビリティ活用の考え方（各班の発表）

《モビリティの活用について》

買物公園北側に住んでいる高齢者の買物の足に

自分で運転しなくて済むので
飲食しながら乗れる

メインの利用は観光客だが、
エンタメ性を持たせ、市民にも
利用してもらおう仕掛け

高齢の来街者のバス停から買
物公園エリアへの足に

モビリティ車両にモニター設
置やラッピングなどで、広告
費を集め運営費に充てる

電動カートへの意見

若者や免許のない方も乗れる、
乗り捨て可能なレンタサイクル

レンタルスポットは2箇所（駅
前と市役所）あると、利便性が
高まる(+買物公園内に立ち寄
る仕掛け)

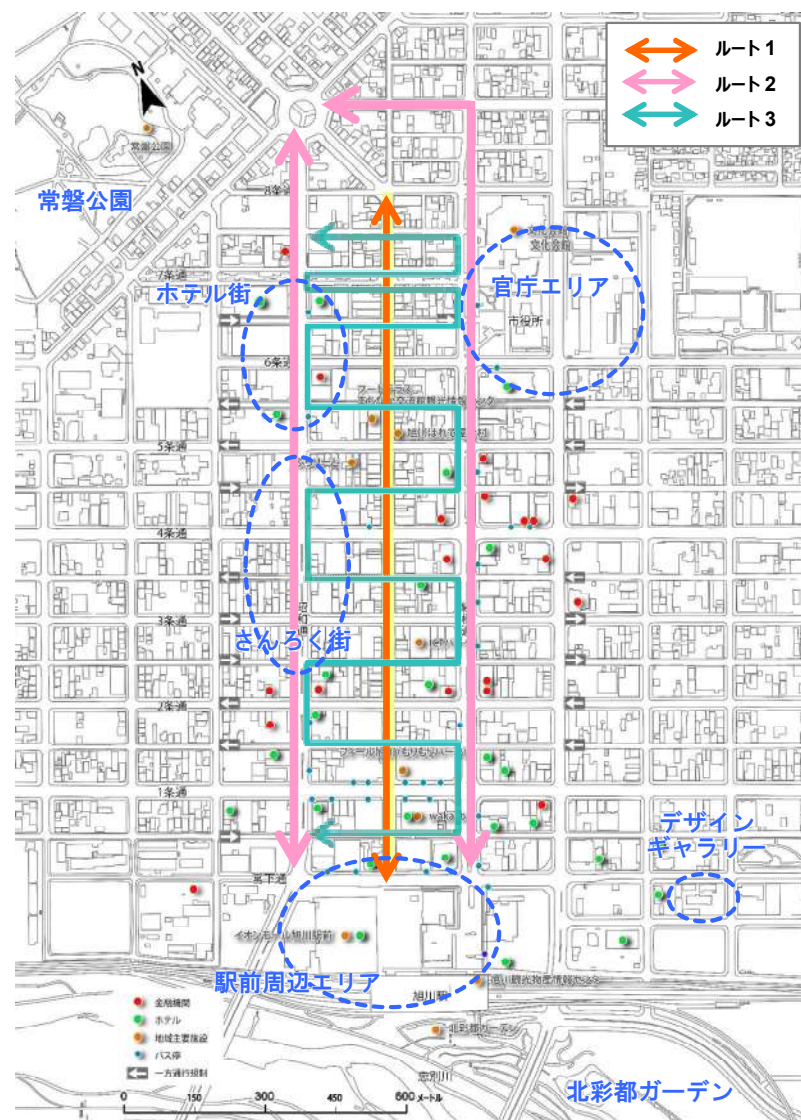
モビリティに乗ること自体が目
的になるようなものに

旭川駅でのレンタサイクルやピ
クニックシートの貸し出しなど、
既存サービスを一緒にPR

サイクルラックをカフェに設置
し、人が周遊する仕掛け

レンタルモビリティへの意見

その他モビリティに持たせる機能など



○モビリティ活用の考え方（各班の発表） 《モビリティのルートについて》

初めて来た人方が街並みを見て回れるようにする（ルート3）

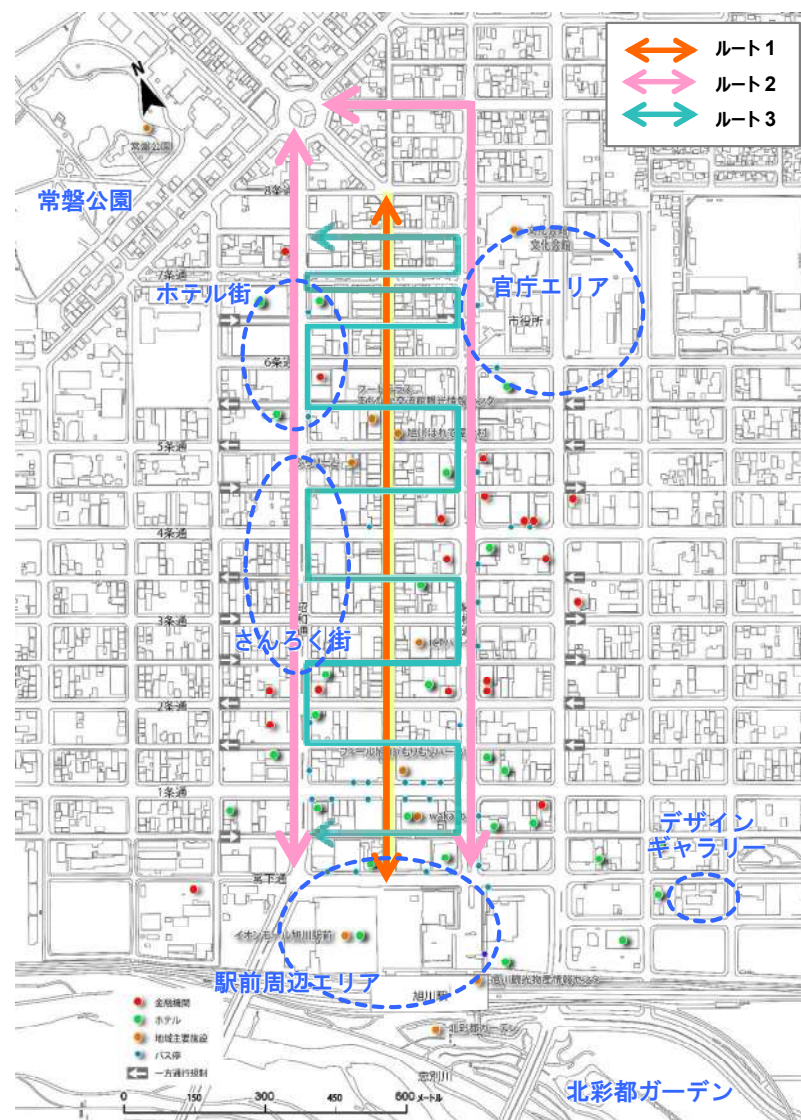
買物公園南北（ルート1）だけでなく、緑橋通・昭和通（ルート2）、周辺スポットを回れるルート

電動カートは、歩行者の流れ等を阻害しないよう、買物公園には走らせない（ルート1）

旭川駅、市役所、文化会館、図書館、美術館、さんろく街、デザインギャラリー、北彩都ガーデンなど、主要な沿道をぐるっと周回させる、ジグザグに通って、街中を散策（観光客向け、ルート3）

仲通りにも人の流れを創出でき、出店意欲を高められると、メインストリート以外の波及効果が期待できる（ルート3）

エリア北側にはスーパーなどがなく、駅前周辺を結ばれる、買物公園を走行するルートは便利（市民・居住者向け、ルート1）



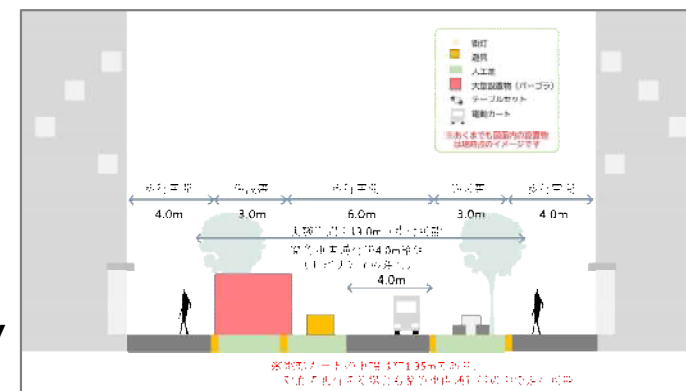
○R6社会実験時のモビリティ活用の考え方

- ワークショップでは、電動カートについて、通したいルートや繋ぎたいエリアのほか、乗ってもらい興味を高める機能、今ある移動手段やサービスとの連携、モビリティの創り方（デザイン・企業）や運営に関するところまで、幅広く意見をいただきました。
- 電動カートを使ってもらいたい移動は、総じて買物公園エリア全体の南北をつなぐことであるといえ、南北を結ぶことを軸に、他のエリア・スポットを繋ぐことを検討します。
- また、買物公園エリアで活動される方の、モビリティへの関心や意識を高められるよう、関係者の参画・協力を促しながら社会実験を計画していきます。
- なお、買物公園エリア南北をつなぐルートには、滞在空間等への影響を懸念し、買物公園内の通行を避けた意見がありました。滞在空間の設置時にも緊急車両通行帯4mを確保する必要があり、社会実験車両(幅1.35m)も、その4m内で誘導員を各車両に配置し走行させることから、滞在空間等への影響はないと考えています。また、限られた台数での実験となり、運行頻度等の利便性（待ち時間の発生）を考え、買物公園内を通行させることを、R6社会実験では計画しています。

歩行者空間での電動カート走行例



買物公園内の滞留空間の配置計画



I 班



II 班



Ⅲ班

